

災害に強く、震災復興に役立つ技術開発



取締役執行役員 技術開発部門長
兼 塗料事業部門副部門長(技術統括)

里 隆幸

作家の半藤一利氏のご自身の著作『戦艦大和と福島原発』の中で、「日本人は危機に際し、起きて困ることは起こらないことにする悪癖がある」と指摘しています。地理(殻)的・気象的に厳しい環境条件に曝されている我が国では、時に過酷な自然災害に立ち向かいながらも、技術者は常に質の高い技術を提供し続けることで社会に貢献してきました。しかし、未曾有の大地震の前では幾ら質の高い技術を有していたとしても、対策の水準が不十分であれば無意味であることが明らかにされました。この震災で“想定外”という言葉は何度も耳にしましたが、この言葉に違和感を覚えたのは筆者だけではないと思います。即ち、この言葉は危機に際する日本人の悪癖を象徴するもので、“想定 of 誤り”、“コスト・効率を優先するあまりの想定 of 甘さ”がより適切な表現ではないでしょうか。

甚大な被害をもたらした東日本大震災の発生から早くも一年半の月日が経過し、立ち遅れていた復旧・復興の活動も漸く具体化しつつあります。今まさに目前にある震災復興や今後予想される自然災害への対応の如何によっては技術者ひいては企業の真価が問われると言っても過言ではありません。復興活動には住宅やインフラ整備、家財道具や電化製品の充実等が必要で、何れも弊社が得意とする塗料事業分野ばかりです。

弊社には地震発生の一週間後に塔頂に到達し本年五月に開業した東京スカイツリーを長く、美しく護る技術があり、さらに節電対策に有効な遮熱塗料をはじめ、生活空間を彩り豊かに演出し、安らぎを与える多くの商品があります。本『DNTコーティング技報No.12』では新規技術および機能性塗料の幾つかを最近の技術開発の中から紹介致します。

末文になりましたが、先の震災により被災された皆様には深甚のお見舞いを申し上げますと共に、被災地の早期復興を心よりお祈り致します。これからも災害に強く、安全で安心な生活環境の創造に貢献しうる、まさに“想定外”の技術開発に努めますこととお誓いして、巻頭のご挨拶とさせていただきます。